

編輯後記

◆文樂座の盆替り興行の打揚げ後、因協會の第三回技藝獎勵會が九月二十五、六の兩日公開された。若い太夫、三味線彈や人形遣が懸命の藝を盡つてゐる圖は頼もしい。然しあの何とはなしに雜然とした見物席の感じに眉をひそめるものは筆者一人であらうか。聴き巧者、觀巧者を對象としたところではなれば藝の向上はない。如何にも狩り集めの、義理見物といった有様は早く何とかして貰ひたい。假令短期の公演であらうとも、こうした公演の催されてゐることだけでも、世の文樂に關心を持つ程の人々に知らしめる方法だけは構じておく必要があるであらう。由來松竹といふところは此の種の向上曾とか研究會とかに對しては冷淡であるばかりでなく、寧ろ邪魔さへし兼ねないといひてゐるが、文樂の現状から誠に心細い明日を考へる時、若い優れた藝人を育てあげる温床であるべきこの催しには大いに關心を持つばかりでなく、進んで宣傳等に力を致して側面より協力するもよし、積極的な應援をこそ望ましいものである。

◆巻頭を飾る「冥途の飛脚の中間曲に就て」の筆者、細川景正氏は巢林子近松翁の作品を正しく理解せんと傳承する樂曲、註釋を中心として新道特殊の研鑽を重ねつゝある方で「現存竹本筑後祿淨瑠璃、時代、世話曲年表」以下多くの研究を發表されてゐる。局華水氏には、英國戲曲史の著作があり、淨瑠璃に關心を寄せられ、古板太夫師の此の度の不幸に深く同情されて、同師を慰むる會を發起されたことは本文に見ゆる通りである。

◆寥々たる文樂現役陣にとつて豊竹和泉太夫師の逝去は一つの哀しい打撃である。辻部政太郎、鴻池幸武兩氏に追悼文を乞うて、さゝやかなる手向草とした。

◆永らく御愛讀を賜つた太宰庵門博士の「佛蘭西古典悲劇研究」は今度、甲鳥書林から「フランス古典悲劇の形成」と題して上梓近く書店を賑はすことになるので、今回より新課題の下に稿を起して頂くことになった。

◆淨瑠璃解説「引窓」の筆者野間光辰氏と表紙繪の解説の筆者前田善雄氏とが時を同じうして病臥されたので、本誌には二つ作ら休載の已むなきに至つた。然し兩氏とも漸次快方に向はれつつあるから、遠からずその續篇を頂戴出来ることと思ふ。御諒承を乞ふ。

(編輯部 林、大西)

淨瑠璃雜誌 第四百十三號

(昭和十七年十月號)
(毎月一回三十日發行)

●本 部 金五十錢
●定 價 半ケ年 金三十圓
● 一 冊 金五圓

○御注文は一切前金の事
○雜誌發送を以て領收證に代ゆ
○外國送りは一冊に付郵税十錢を要す
○振替は浪化名物淨瑠璃雜誌社。
○座穴版二三九二八番

廣 告 料

普通 一行 金三十錢
二 等 一行 金二十圓
一 等 一行 金二十圓
特 等 一行 金三十圓
○特等は一頁以下の需に應ぜず六圓
○以上の特約には割引す
○製版を要する時は其實費を申受く
○廣告料は總て前金の事
○一行九ポイント活字

發行所 樋口虎之助
編輯人 坂口秀吉
印刷所 高尾印刷所
發行所 淨瑠璃雜誌社
大坂市西成區千本通二ノ三三
大坂市西成區江戶堀下通四ノ三〇
大坂市西成區江戶堀下通四ノ三〇